



湘友会報 第一号 昭和二十六年十二月一日発行

母校記念祭を終わる

感激また新たなり

赤木先生

天野文相列席

快晴にめぐまれた十月六日母校体育館において記念式典を挙行、此れを皮切りに多彩な催しが開かれた。以下その主なものについて順を追って説明する。

記念式典

湘南高校三十周年記念式は午前十時、体育館にて挙行。この日七十九才の赤木先生が正面来賓席に座れば期せずして二千名の拍手。学校長の式辞、来賓祝辞、県知事代理河田教育委員長、赤木先生は約三十分マイク無用の大音声で回顧、今日あるは皆様のお蔭であると結んで降壇、岡崎官房長官代理等の後、高校長代表金持素野高校長は、湘中職員時代の思いでの古洋服をなでながら祝辞、市内中学校長代表上林藤沢一中校長は、「とこわかか湘南」とたたえて感激に声をふるわす。村上PTA会長の祝辞、天野湘友会会長は四千六百名同窓代表として、心から母校の発展を喜び感謝する旨の祝辞を力強く述べる。杉山生徒代表の祝辞の後、功労者赤木先生、小串清一、村田久吉及び故金子角之介氏、故臼井武氏の遺族に感謝状。勤続職員表彰は二十六年勤続の加賀屋先生以下蟹江・鍋木・春原・八巻・志汽・藤原・平田・村田の諸先生。創立以来の小使さん伊東榮次郎さんの紋服姿に一同拍手。正午講堂の祝賀昼餐会は、校名入りの銚子と盃に冷酒、折詰めで盛会。

天野文相講演

午後一時、本校生徒及び市内高校生徒約一千五百名を前にして、菅君(二期)の努力で特に臨席した天野文相大臣は、スタンド上から正しく働いて正しく生活せよと熱弁、聴衆に深い感銘を与えた。終って文相にカメラの放列、本校新聞部と一問一答を交す。

対中京定期戦

一時名古屋より遠征の中京商チームを迎えて、優勝記念バックネット前で、文相、浅井校長、中村教育長が赤木先生を囲み記念撮影。野球好きの文相は講られるままに真新しい球を握ってマウンドに立つ、始球はワンバウンドでミットに入った。試合は、名門中京を、裏球投手衆樹の好技巧打に二対零で押し切りカップを獲得。



ご案内

これは湘友会報第一号をウェブ用に編集したものです。原版はタブロイド版、縦書き十一段組の新聞形式ですが、縦書きはそのままにして、ウェブに掲載できるよう構成し直しています。また、旧漢字は人名を除き、ほぼ新漢字に変更していますが、言いまわしは原文のままです。会報に使われていた写真は再利用不能なので湘南高校記念誌より関連のものを転載しています。

湘友会総会及祝賀会

午後四時講堂にて湘友会定期総会。参会者三百五十名。赤木(一期)議長の下に久保田君(一期)の会計報告。三十周年記念事業費は目的額を突破六十九万と発表。一同拍手。会長副会長の留任決定。

ついで母校職員及び旧職員の赤木先生、長澤元横浜第一高女校長、大瀧元横須賀高女校長、金持秦野高校長、上林藤沢一中校長、香川小田原高校長、加藤鶴沼中学校長、塚本茂先生、佐藤尚勝先生、大村隆先生等多数来席の下祝賀会が清酒・ビール・サンドイッチで賑やかにくり広げられた。

斜恩会

同夜七時より角若松で謝恩会があり尽くせぬ回顧に時を忘れた。

第二日・第三日

昨日の快晴に引続いて好天気。日曜日で出足も良い。運動場では対平農とのラグビー戦。講堂は演劇、旧剣道場は映画、図書館は辞書展、本館二階は書道展、本校関係諸名士の揮毫、吉田首相十四才当時の毛筆作文が目をもひく。

気象、写真、歴史、新聞、絵画展、特に三十年史展は各種写真や統計、記録等で卒業生、父兄の注目をひく。絵画室では卒業生の山下大五郎君(立軌会)鈴木清君(藝大講師)石川滋彦君(新制作派)寺田春一君(藝大助教)等大家の力作が競った。理科館は理科展、レコード鑑賞。体育館は食堂に早替りして女生徒が大サーブス。

第三日も引き続き盛會。

記念運動会

十四日(日)に予定した運動会は雨。十八日(木)に延期。当日は秋晴れの下に豪華な絵巻がくり展げられた。特に正午の名物仮装行列は、各クラス各部が奇ヲ凝らし多種多様、その仮装のまままで一千二百名のスクエアダンス、民謡舞踊はやんやの拍手を浴びた。

湘友会に寄せて 学校長淺井誠一

本校創立三十周年記念式典行事も観びと希望に満ちて盛會裡に終了いたしました。之は学校職員生徒、湘友会、PTA、地域社会神奈川県教育委員会等の方々の愛と熱に由るものであります。殊に湘友会各位の御尽力によって記念事業として本校図書館に書棚と図書を寄贈されたこと、及び式典行事に多額の寄与を戴いたことは、其の母校愛と努力を厚く感謝致します。又式典の直前に赤木先生が解除になり、先生及び教職員を招待されて湘友会総会を開催されたことも無上の喜びで永く忘れることの出来ぬ心の記念であります。

私達は三十にして愈々強健に立ち上りたいと思っております。伝統の一つである知徳体三育一体の精神を發揮して、学問と教養と運動との調和のとれた教育を充実し実力と高潔な品性とを兼ね備えた人格を陶冶育成したいと念願しています。

周易繫辭上傳の中の「天を樂しみて命を知る故に憂えず。土に安んじ仁に敦し故に能く愛す。」という一句は人生行路凡ゆる年令、凡ゆる職業に在る人にも当てはまることではないでしょうか。湘友会の各位がその使命を果され、日本の再建と発展に貢献し、翻って母校の向上のために寄与されることを祈念致します。

湘友会會員諸氏に贈る 赤木愛太郎

今回は湘南創立三十周年記念式が挙行され私が三年余も御遠慮申上げて居りました湘南。三十年に近い年月、毎日出勤の

其湘南のしかも目出たい記念式に参列し久々に卒業生諸氏と快談の機会を得たことは欣喜に堪えませんでした。私が本校のためにまだまだ為さねば成らなかつた数々の事が在職中に未だ解決せず可憎歲月を経過してしまつた。然るに今や各方面の御協力に依つて其の大部分が実現せられ私としても喜びに堪えませぬ。皆様に対して私の方から御礼を申上げるべきでありますのに却つて皆様の方から感謝の御辞やら記念品やら賜つたことは主客転倒の感なきを得ませぬ。第一私が長年在職したと云ふことは各方面の理解支援に依るもので若し私に何等かの功績がありとするならば内にしては職員生徒、外にしては父兄卒業生一般社会当局の援助の賜ものであつて私が個人的に謝意を受けるのは甚だ心苦しく存するのであります。殊に湘友会員諸氏が卒業後一身上の問題に就而よかれ悪かれ變つた事があれば直接間接に報告せられ私共の力に及ばない事でも喜びも悲しみも一緒にさして下さつた事は教師として何ものにも代え難い喜びであります。特に最近数年間の境遇に就いては深甚な共感を披瀝せられ慰安を与えられた事は感謝に堪えませぬ。

私共は日常生活の裡に遭遇する現象事実を仔細に察すれば社会現象は申すに及ばず自然現象でも一として私共の指針たらざるものはありません。私共は教える生徒の中にも否自分の子供の中にも教えられることがある。まして先生や上長の方々はたとえ其人のあらゆる部面か師と似ぐに足りなくとも何らかの人並すぐれた点が必要である。私は曾て一人の老婆を雇つて居たが彼女は世の所謂教育のない老婆にすぎなかつたが彼女が祖父より幼時口授せられて居たいるはがるたに処世上の指針を与えられて人格方面から見れば実に立派なものであつた。思ふに自分の同僚は勿論下僚の中にも否自分が生んで自分が育てつつある子供の仲にも自分の訓戒となる資料は無限に展開せられている。研げ研げ此心得で日常の活動をすれば仕事即修養ではないでせうか。蛇足であるが今社会に踏み出した許の方々には特に其ポストに於て最善を尽くして努力しつゝ益々人格の修養に勤められんことを衷心から祈つて止みませぬ。

大空を鳴り響かせよ 揚げ雲雀

湘友会員諸君へ 会長天野武一

(一)

湘友会は大正十五年湘南中学の第一回卒業生を送つた際に生まれ出た同窓会であるが湘南中学とその卒業生との置かれた相互の地理的条件による支配的な環境は、ともすると母校と卒業生との結び付きを希薄なものとしてしまひ勝ちであつたのである。その上、戦争による永い激動が強い妨げとなつたことは申す迄もないことである。

戦争は済んだ。かつての湘南中学は、改めて湘南高校として新しいスタートを切るに至つた。そうなると、わが湘友会はいかにあるべきものなのか、私どもは静かに各自の周囲を見渡す余裕を得て、このようなことに關心を持ち始めることに至つたのである。

(二)

新しい教育法によつて湘南高校にもPTAができた。しかし、やはり、同窓の集りは、父兄又は先生方の集会とは別個の意義を持ち、母校に対して別個の愛着を抱かざるを得ない。この気持ちは、たとひ、今日の湘南高校が往年の湘南中学でないにしても、ひとしく、あの校舎で、そしてあの校庭で、更に又あの扇森の下で学生生活を過去に送り又現に送りつつあるといつ一つの共通の環境が、どうしても断ち切れない親近感を抱かしてやまないものである。

そこで湘友会は極めて自然のうちに依然として存在し、規約の改正もすらすらと進められ、かつての湘中の湘友会はひきつゞき湘南高校の卒業生を吸収するとともに、過渡的な存在たる姉妹校湘陽中学の卒業生をも加えて、現在体裁を整えることができた。それに母校三十周年記念一学校当局とPTAは、在校生とその喜びを共にして、母校の歴史をしのび、新生の門出を祝つたため、色々の催しや行事の企画を開始するに及んで、どうして湘友会がこれを傍觀し得ようか。

今回の募金活動は、湘友会として画期的な活動であったと申すべきである。その成果に対してはなおいくつかの不満が残るであろうけれども、とに角役員諸君の涙ぐましい努力と、会員諸氏の御熱意とは、湘友会自体に対して新しい結束のきつなを形成し、あわせて将来の発展のために絶好の基盤を作り成す機会を与えてくれた。湘友会は今後いかにあるべきものであるうか。湘友会は、実に会員諸君の湘友会に外ならないのである。私どもは、図らずも今日、役員としての事務を担当しているけれども、これはあくまでも当面の便宜によるものに過ぎない。湘友会は毎年必ず総会を持つのであるし、役員任期は一年限りを原則としている。幸い、母校には有能且つ熱心な会員が教鞭をとり、あるいは又、PTAの構成員に会員を有する今日である。その発展は期してまつべきものがあると信するのである。

私は会報第一号の刊行を機会に、会員諸氏が本会に対して一層関心を寄せられんことを願ってやまないものである。

会報発刊に際して

副会長 菅 高重

母校湘南の三十周年記念を期しまして終戦後初めて湘友会第一号の発刊を見るに至りました事は御同慶に堪えない所であります。去る十月六日には母校に於て他校の全く追隨を許さぬ盛大な式典が挙行され且つ又我々全卒業生が常に忘れる事が出来なかつた赤木前校長の追放が式十日程前に解除になり先生が鑑録として十六年間教鞭をとられた懐かしの母校の式典に参列されました事は我々一同の心からお喜び申し上げます。

実際我湘友会は準備不完全の儘三十周年を迎えてしまったのであります。併し乍ら湘友会としましても母校の三十周年には大いに母校当局に協力すべく五十万圓の寄付を集める事に決定したのであります。母校に教鞭をとって居られる第一回卒業の久保田先生外同窓の先生方達の夜も昼も無き御努力の賜物として七十万圓の巨額を得たのであります。而も此等の先生方と共に在校の後輩が学業の傍ら各地区に於いて募金に協力して呉れた事も我々一同として見逃す事の出来ぬもので共に深く感謝する所であります。此の様な事業は仮令役員が如何に熱心に活動致しましても会員にして母校に対する熱情愛情が無ければ決して達成し得るものではありません。此れには今日迄欠けて居りました会員相互の縦横の連繫をどうしてもこの機会に完璧にすることでありませぬ。かつての二高の如くあらしめることでもあります。会の円滑なる運営であります。此れには経費の源泉となる会費の徴収が完全に行われなければならぬ事でありませぬ。併し最近信用組合とか銀行が集金の代行をして呉ますので此の方法に依り不可能ではないと思つております。

私は湘友会を単なる同窓生の娯楽機関とか寄附とかに止めん事は全く意味が無い思つております。我が湘友会は兄弟の情愛に依り相互扶助や後輩指導の機関として実際に有機的に活動しなければ存在の意義は無いものと信するのであります。思えば赤木前校長の残された御功績は実に偉大なものでした。今日に於ても上級学校へ進学率が全国で上位にあると共に運動に於ても常に名譽ある母校をして今後一層名を挙げるしむるものは偏に我々卒業生が一致団結して後輩の指導後援をして行く事にあると信するのであります。

湘友会への希望

副会長 篠原健太郎

天心爛漫の少年時代を恙無く過ごした学び舎の古めいたのに逆比例して校庭のプラタナスが五風十雨に相過しつつ天を摩する偉觀を眺める時、今更旧懐の情禁じ得ない。月変り年改まつて四三六七名といふ卒業生を送り出した母校諸先生のたゆまなき努力と真心を以て愛の教育に盡瘁せられた赤木先生はじめ歴代の校長先生の伝統の湘南魂を鼓舞し以て不動な堅忍不拔の校風を樹立し、巣立つ学生を目的の上級学校に或いは直ちに実業に健全のスタートを切らせた功績は真に感謝に堪えない。

本年五月早々から初めた記念事業募金運動も湘友会の久しく等閑に付し亦會員移動のため名簿の不備に全く暗夜を航する感、数度の幹事会も全く曇をつかむ如く一步も進まずこの間各支部幹事の奔走の結果八月辛くも目的の名簿を把握し得られ、愈々最後の努力の拍車をかけ、かくも至難の事業も堂々予定額突破し盛大なる式典記念事業の完遂を得たことは同慶至極である。

卒業生の今後の関連は絶対的に必要で同じ学び舎に五星霜を過ごしながら巣立つと年次の相違等のため全く未知に成り他人行儀で居ることが実に多い。其所で湘南卒業生のバッジを製作し、卒業シンボルを鮮明にし、社会人として相互の親睦を計ると共に政治経済学術等の向上連絡に、大いに貢献するよう思考しています。次に卒業生親睦の強化の第一手段としては、まず同期生の会員、白線帽の湘南生に還元して歌ひ笑ひ会を持ち、助け合う、腹からの友の会を作つて載きたい。

今回の三十周年事業の成功は、何と云つても各支部の活動に俟つもの実に大である。従つて各支部の有機的組織の発展は則湘友会の力の根源と云へよう。支部員は隣組と同一性質を帯びる關係上親睦は勿論家庭の慶弔事迄相互扶助の觀念を發揮せられ、茅ヶ崎支都が現に家族慰安大会挙行を数度行つてゐる如くありたいものです。亦政治の面での平塚の如く、明るい市の建設に湘友会員こそつて代表を選出した例などそのよき例である。湘友会本部は諸兄の會費納入額によつて事業は左右せられる。従つて會費は本會活動のエネルギーである。卒業生全員百圓程度の完納され湘友会基金も蓄積せられれば埋もれんとする有能の後輩への奨学資金貸与も出来、社会に有為の人物を送り出すといふ事も、先輩として意義あることと思考する。

これから十年後の卒業生には相当の期待が懸けられよう。理想は大なるを尊しとする。まず各支部に湘友会館を建設、階下ストアとし、湘南出身の商人をして低物価主義の販売を行ふと同時に階上湘友会會室等に計画するのも亦空想でく実現可能のものと思ひます。

特に末筆ながら母校に教鞭をとられる卒業生久保田、金子先生初め各位が真剣に湘友会に奉仕せられた努力に対し、會員一同に代り厚く感謝を申し上げます。

編集室

玉稿を寄せられた皆様は厚く御礼申し上げます。あおもこつとも思いつつ、ついにこんな會報となりさぞかし御不満だと思ひますがお許し願ひます。會報第一号発行の目的が創立三十周年記念募金に御協力下さった會員の御芳名とその收支決算報告をのせることにありましたため紙面の都合で多く割愛させて頂きましたこと御了承下さい。會則によつて年一回以上會報を發行しなければならぬことになっておりますから、次回からは總會あたりで編集方針を決定し、ほんとうに會員に喜ばれるものにならぬと思ひます。湘友会も大所帯になり會費さえちゃんと集まればいろいろの事業も活発にやれるといつもの。これから益々會員相互に緊密な連絡をとり助けられたり助けたりして子の代、孫の代までも深く結んでゆきたいものです。湘友會員各位の發展をひたすらおのりいたします。

(二二画)

寄付者名簿 略



創立三十周年 天野文部大臣記念講演 昭26.10.6

